



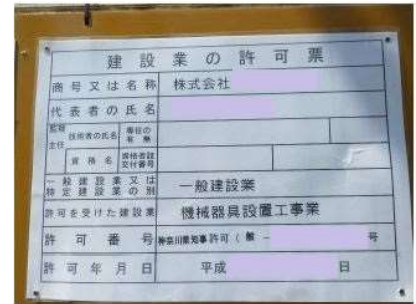
# Fellow's Report

=ものづくりの仲間から=

平成 31 年  
《4月号》

## 工事写真の撮り方

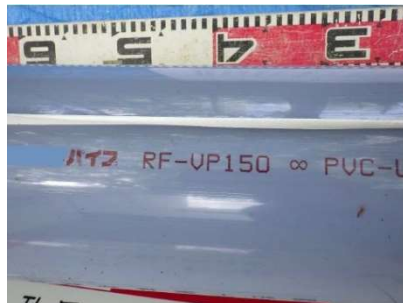
### ① 工事看板



全体の掲示されている状況を撮り、掲示内容が確認できるように、個別で全ての掲示物を撮影する。（1枚ごとの方が確認しやすい。）

※建設業の許可票は、元請の会社のみならず、下請の会社が建設業許可を得ている場合は掲示する。

### ② 材料検査



機器・配管などは、全体の写真を撮り、型番・製品名・規格などが確認できるように撮影する。

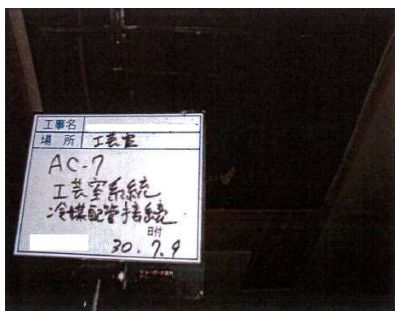
設計図でフレキシブルジョイント、桧、フードなどの寸法が決められている場合は、メジャーを置いて寸法が確認できるように撮影する。

※材料は養生した上に置いて撮影する。

### ③ 悪い写真の例



ピンぼけの為、写真の判読が出来ないから、このような写真は綴じない。



写りが暗くて、写真の判読が出来ないから、このような写真は綴じない。



材料は床に直置きせず、養生をした上に置く。

## 建設キャリアアップシステム

～建設業と技能者を支える新しいシステムが動き出します～

建設キャリアアップシステムは、技能者ひとり一人の就業実績や資格を登録し、技能の公正な評価、工事の品質向上、現場の効率化などにつなげられるシステムです。

平成 31 年 4 月に本運用を開始します。

① 事業者、技能者双方にメリットがあります。

- 事業者にとってのメリットは、技能者の就業状況等を容易に確認できるほか、入退場に IC カードを使うことにより、現場の入場管理等の効率化が図れます。
- 技能者にとってのメリットは、自分の資格や就業履歴を証明できるため、働く現場にかかわらず、適正な評価と処遇が受けられます。

② IC カードにより簡単に就業履歴の蓄積ができます。

システムに登録された技能者には IC カードが発行され、以降はそれを使って簡単に就業履歴を蓄積できるようになります。これにより、技能者一人ひとりの技能レベルが見えるようになり、技能者を雇用する専門工事業者の評価と受注確保、そして、技能者自身の処遇改善につながります。

③ 官民が連携して推進する安全なシステムです。

平成 27 年 8 月に「建設キャリアアップシステムの構築に向けた官民コンソーシアム」がスタートしました。さらに平成 29 年 6 月には国と主要建設業団体が連携した「建設キャリアアップシステム運営協議会」をスタートさせてシステムの運用方針の検討を進めており、運営主体である（一財）建設業振興基金がシステムの開発・運営にあたっています。